

## 廃棄物部会の活動概要

## 1 令和5年度の部会開催状況

月 日	議 事 等
令和5年 9月19日	○ 第五次滋賀県廃棄物処理計画の進捗状況について（報告）

## 2 令和6年度の部会審議予定

- 第五次滋賀県廃棄物処理計画の進捗状況について（令和6年9月開催予定）
- 第六次滋賀県廃棄物処理計画の策定について（令和7年3月開催予定）
- 旧RD最終処分場における支障除去等の現状について（令和7年3月開催予定）

## 1. 一般廃棄物（ごみ）に係る第五次滋賀県廃棄物処理計画の数値目標等の達成状況

第五次滋賀県廃棄物処理計画における「数値目標」、「取組に係る目標」の達成状況は以下のとおり。

表1 一般廃棄物（ごみ）に係る第五次滋賀県廃棄物処理計画の「数値目標」の状況

		実績値										五次計画 目標値
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R7
ごみ総排出量	万t	45.7	44.1	43.8	43.1	43.0	43.3	43.5	42.6	41.8	-	参考指標 41.3
1人1日当たり ごみ排出量	g	880	851	843	831	830	834	837	822	809	-	804
総資源化量	万t	8.7	9.1	9.1	8.3	8.0	8.1	7.7	7.7	7.2	-	参考指標 7.7
再生利用率	%	19.1	21.0	20.8	19.3	18.7	18.7	17.8	18	17.1	-	参考指標 18.5
最終処分量	万t	5.0	4.8	4.7	4.4	4.4	4.4	4.4	4.2	4.2	-	参考指標 4.2
1人1日当たり 最終処分量	g	96	92	90	84	85	84	84	81	81	-	82

表2 一般廃棄物（ごみ）に係る第五次滋賀県廃棄物処理計画の「取組に係る目標」の状況

		実績値										五次計画 目標値		
												計画期間		
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R7		
プラスチックごみの発生抑制の推進	マイバッグ持参率（レジ袋辞退率）	%	89.2	89.7	89.9	89.5	89.6	89.4	90.1	90.8	91.2	90.6	85以上 (計画期間中)	
	県内のマイボトル使用可能な給水等スポット数	箇所			16	20	21	21	23	22	56	97	100	
食品ロス削減の推進	食品ロス削減を認知して削減に取り組む消費者の割合	%								78.3	80.7	80.5	80以上	
	「三方よしフードエコ推奨店」の累計登録店舗数	店							102	118	211	274	309	300
災害廃棄物の円滑な処理体制の構築	市町災害廃棄物処理計画の策定率	%						5.2	21.1	42.1	73.7	89.5	94.7	100 (令和6年度までに)
散在性ごみ対策	「環境美化の日」を基準とした環境美化運動参加者数	人	266,641	249,478	247,896	232,979	249,338	266,195	231,814	133,812	172,321	194,802	1,200,000 (計画期間累計)	

### (1) 現状・課題等

- ごみ排出量および1人1日当たりごみ排出量は、平成26年度から減少傾向であったが、平成30年度から令和元年度までやや増加したのち、令和2年度から一転減少した。
- 再生利用率（リサイクル率）は、平成27年度から減少傾向であり、これまでで最も低い値を更新した。
- 最終処分量は、平成28年度以降、増減を繰り返しており、横ばいであったものの、令和2年度から減少し、令和3年度は微減となっている。
- 令和4年度のマイボトルスポット登録事業者数は前年度より41箇所増加し、97箇所と

なり、計画目標値まで残り3箇所となった。

- 令和4年度において、食品ロスの問題を「知っている」と回答した人の割合は82.5%であり、そのうち削減に取り組む消費者の割合は80.5%であった。
- 県内市町の災害廃棄物処理計画の策定率は94.7%（18市町/19市町）であった。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、環境美化運動参加者数は令和2年度に大きく減少しているものの、令和3年度以降増加傾向である。

## (2) 今後の方向性

- 国際的にプラスチックごみ問題解決に向けた機運が高まっている中、本県においても更なる取組の推進が重要。そのため、令和5年10月からあらゆる主体の実践行動のチャレンジを後押しする「しがプラスチックチャレンジプロジェクト」を全県的に展開する。
- 滋賀県ごみ減量・資源化情報サイト「ごみゼロしが」をリニューアルし、食品ロスに関する特設コーナーを設けた「ごみゼロチャレンジしが」を開設することで、食品ロスの問題についてより分かりやすく、親しみやすく触れられる機会を提供する。
- 災害廃棄物処理計画に基づいて円滑な行動を取ることができるよう実効性確保に向けた取組を進める必要がある。
- 若い世代を始め、より多くの人に参加してもらうため、SNSやHP等の情報ツールを活用し、環境美化活動に関してさらなる情報発信・啓発を実施する。

## 2. 産業廃棄物に係る第五次滋賀県廃棄物処理計画の数値目標等の達成状況

第五次滋賀県廃棄物処理計画における「数値目標」、「取組に係る目標」の達成状況は以下のとおり。

表3 産業廃棄物に係る第五次滋賀県廃棄物処理計画の「数値目標」の達成状況

		実績値						五次計画 目標値
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R7
総排出量	万 t	377	385	376	383	397	-	参考指標 385
発生量	万 t	202	211	204	209	220	-	参考指標 209
再生利用量	万 t	169	178	173	180	190	-	参考指標 176
再生利用率	%	45	46	46	47	48	-	参考指標 46
最終処分量	万 t	9.6	10.5	10.2	10.7	10.9	-	9.8

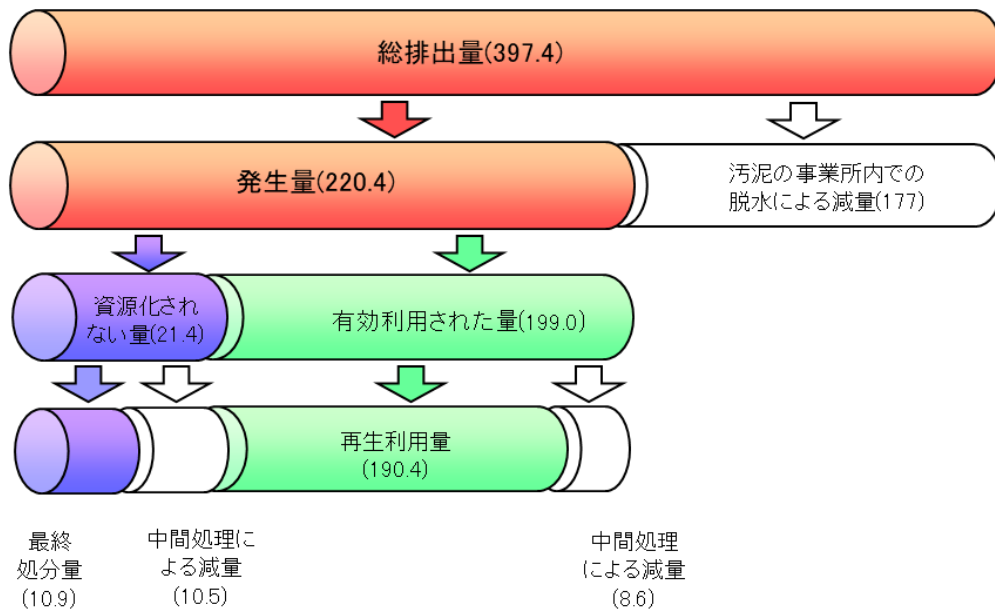


図1 第五次滋賀県廃棄物処理計画の目標に対する令和3年度実績

表4 産業廃棄物に係る第五次滋賀県廃棄物処理計画の「取組に係る目標」の達成状況

			実績値						五次計画 目標値
			計画期間						
			H29	H30	R1	R2	R3	R4	R7
産業廃棄物 処理施設お よび産業廃 棄物処理業 者等への指 導等	優良産廃処理業者認定 数	件	144	160	181	186	197	208	270
	廃棄物処理施設や産廃 処分業者への立入検査 実施率 ※一廃処理施設含む	%	100	100	100	99.8	88.2	99.8	100 (計画期間中)
不法投棄 対策等	産業廃棄物不法投棄等 の発生年度内解決率	%	89.8	88.9	79.3	85.7	78.0	88.9	85以上 (計画期間中)

(1) 現状・課題等

- 総排出量は、平成16年度以降一旦減少したが、その後下げ止まり、平成26年頃から、県内総生産量(額)の増加に伴い、増加傾向にある。
- 再生利用量は、平成20年度以降、微増微減を繰り返しており、令和3年度は190.4万tで、令和2年度より10.5万t増加。
- 再生利用率は、平成26年度以降、低下傾向であったが、平成30年度以降増加傾向にあり、令和3年度は47.9%で、令和2年度より0.9%増加。
- 最終処分量は、平成21年度以降、微減増減を繰り返しており、令和3年度は10.9万tで令和2年度より0.2万t増加。
- 優良産廃処理業者認定数は、令和3年度から11件増加し、令和4年度までで計208件となった。
- 令和4年度の産業廃棄物処理施設設置者および処理業者に対する立入検査の実施率は、99.8% (立入検査407施設/全408施設)であった。
- 令和4年度の産業廃棄物不法投棄等の発生年度内解決率は、88.9% (解決件数64件/新規発生件数72件)と目標の85%を上回った。

## (2) 今後の方向性

- 目標達成に向けて総排出量および最終処分量を抑制するために、引き続き発生抑制や再資源化を行う事業者への支援を実施する。
- 今後、国内外の最新の動向を踏まえながら、循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行に繋がる県内事業者の取組状況の把握や、取組支援の強化を行う必要がある。
- 引き続き、産業廃棄物処理業者を対象とした講習会を開催し、制度の周知および優良な産廃処理業者の育成を通じて、認定数の拡大に努める。
- 引き続き、産業廃棄物処理施設設置者および処理業者に対する立入検査等の指導・監督により、処理施設設置等に起因する生活環境保全上の支障を未然に防止し、産業廃棄物の適正処理を推進する。
- 通信機能を有する監視カメラを整備運用して随時監視する等、DXによる監視体制強化を進める。